ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり

栃木市 教育委員会だより 絆

発行責任者：栃木市教育委員会
委員長 後藤 正人
住 所：栃木市万町9-25
電 話：0282－21－2461
FAX：0282－21－2689
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp

「見えないものに心を寄せる」
～縁の下の力もち～

委員長　後藤　正人

夕方5時を過ぎても明るさが残るようになりました。隣家の梅の花が八分咲きです。ピンク色のボケの花やスイセンの花も咲き出しました。日当たりのよい永野川の土手にはタンポポの花も咲いています。まだまだ寒さは続きますが、身近な自然の変化からも、確実に春が近くまで来ていることが実感できます。

春は年度の締めくくりの時、そして新たなステージに立つための卒業の時。この時期だからこそ、今日までの歩み（人生）を謙虚に振り返ると同時に、見えないものに心を寄せ、感謝する気持ちを大切にしてほしいと切に願っています。

先日、仕事の用で羽田空港に行きました。予定より早く着いたので、展望ロビーで飛行機が飛び立つ様子や到着する様子をぼんやり眺めていました。空港作業員の方々が給油や整備などで慌ただしく動き回っている姿が見えました。何度も見慣れた風景でしたが、作業員の方々のある行動にハッとさせられました。それは、給油や整備を終えた飛行機が離陸のために滑走路に向かって動き始めたのを見届けると、かかわった作業員の方々が脱帽し直立不動の姿勢で飛行機に向かって深々と頭を下げているのです。ほんの僅かな間での出来事でした。勿論、この姿は乗客から見ることはできません。

また、東京駅から東海道新幹線に乗って近畿方面に出かけることがしばしばあります。上りの新幹線が終点の東京駅に到着し、全ての乗客が降りた後の僅か七分間で清掃チームの方々が一斉に列車に乗り込み、神業の如く清掃している姿にいつも胸を打たれます。与えられた時間とチームワークと熟練された技術で車内が見違えるようにリニューアルされていくのです。清掃後は各乗降口に清掃スタッフの方々が一同に整列し、乗客一人ひとりを笑顔の挨拶で迎えます。こうした様子から、彼らが自分の仕事に対して強い責任感と大きな誇りをもっていることが伝わってきました。その誇りが彼らの日々の厳しい仕事を支え、乗客の安全を守り、安心を約束しているのだとしみじみ痛感し、頭が下がる思いでいっぱいになりました。

さらに、高さ634メートルの東京スカイツリーは、世界一の電波塔として注目されています。多くの人たちが高くそびえ立っている美しいタワーをカメラに収めている光景をしばしば目にします。とかく地上のタワーばかりに目がいきがちですが、地下には地上部分を支える頑強な杭が地下50メートルの深さまで数多く打ち込まれていることを知る人は余りいません。大きな桜の木も地下には同じ高さの根をはわせているのです。

このように、どんなものやことにも必ず「陰の支え」があるのです。たった一機の飛行機が大空に飛び立つためにも、高速で走る列車を動かすためにも、そして、美しいタワーを支えるためにも数え切れないほどの「縁の下の力もち」の存在があります。

今、私たちが地域の方々と共に支え合いながら生活しているのは、皆さんご自身のご努力は勿論のことですが、ご両親を始め、ご家族や地域の方々や学校の教職員など、これまでに出会った全ての方々の「縁の下の力もち」があることを忘れないでほしいものです。そして、普段なかなか見えないものやことにこそ目と心を向け、日々感謝の気持ちを大事にしながら、充実した生活を送ってほしいと願っています。

全ての感覚をONにしてみませんか。ほら、春の足音が徐々に大きくなってきました。

教育委員会って何？(2)

教育委員会ってどんな活動をしているの？

Q　教育委員の主な活動を教えてください。

A　教育委員は、主に次のような活動を行っています。

定例会議を開催しています

栃木市教育委員会は、原則として毎月１回、定例会を開催しております。このほか、必要がある時は臨時の会議（臨時会）を開催しています。

会議では、教育行政における重要事項や基本方針を決定するなど、栃木の教育がよりよくなるよう様々な角度から検討し話し合いを進めています。定例会議は、公開を原則としており、“広報とちぎ”や市ホームページで、日程をお知らせしています。一度見学してみませんか。

なお、議案・報告事項によって（人事に関することや、個人に関する情報など）は、非公開となる場合があります。

事務事業の点検評価を実施しています

毎年、教育に関する事務の管理と実施について、点検及び評価を行っています。客観性を確保するため、外部の方々のご意見を聴き点検及び評価を行い、その結果を、議会に提出し教育委員会のホームページでも公表しています。点検評価を実施することにより、栃木市の教育の確かな方向性の確認に努めています。

教育現場の状況の把握に努めています

市内小中学校等の教育活動や教育環境の現状を具体的に理解し教育行政に生かすため、計画的に学校訪問を実施しています。

学校訪問は、平成２４年度から開始し、４年間で全校を訪問できるよう、年に１０校程度行っています。

今年度は、栃木第五小、皆川城東小、寺尾小、大平東小、三鴨小、家中小、西方小、小野寺北小、栃木西中、寺尾中、大平中を訪問しました。

学校訪問で給食を食べながら子供たちと懇談

とぴっくす（教育委員会制度に関する法改正について2）

平成２７年４月から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正する法律が施行されることとなりました。改正法では、首長（市長）は総合教育会議を設け、この会議において、教育委員会と協議し、教育に関する施策の大綱を策定することになります。

大綱は、教育基本法に規定する基本的な方針を参酌しつつ、その地域の実情に応じて、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。主な内容は、各地方公共団体の判断に委ねられていますが、文部科学省が示した例では、学校の耐震化、学校の統廃合、少人数教育の推進、総合的な放課後対策、予算や条例等地方公共団体の長の有する権限に係る事項についての目標や根本となる方針が考えられます。

※委員会制度の移り変わりにつきましては今後もこの「教育委員会だより」でお知らせしていきます。

教育委員の声！！

教育委員の活動は、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な教育委員会の事務事業の点検評価や学校訪問など多岐にわたっています。ここでは、教育委員の“生の声”を紹介します。

筑比地幸子委員

文化の秋、各校で学校祭が開かれましたが、元気な子どもたちの様子を見るのは毎年の楽しみです。

数年前より地域の中学校の他に大平中にもお邪魔しています。「おやじの会」の活動に興味を持ったのがきっかけでした。学校と地域の連携が必須と言われる今、最も身近な「地域人」とも言えるＰＴＡ・ＯＢの方々に子どもたちと接していただき、自ら育ち自ら学ぶたくましい力を子どもたちが持てるよう共に見守っていけたらと願っています。

浅草からの電車の中、ある女性グループの会話が耳に飛び込んできた。「蔵の街栃木ですって。」「あら、知らないの？わりといいのよ。」なんだかすごくうれしくなった。私が旧市内の高校に通っていた頃は、まだ「蔵の街」ではなかったような記憶がある。あれから３０年以上もの間、伝統的な建物、景観を整備し、祭りやイベントを盛り上げながら道なき道を必死に歩んできたたくさんの人々がいる。まだ道は半ばであるが、徳川家康ゆかりの世界遺産「日光」の手前に、途中下車できる手作りの「小江戸」があることを誇りに思いたい。

福島鉄典委員

若林由美子委員

１０月２５日土曜日に都賀中学校文化祭にお邪魔しました。生徒たちの発表では、音楽に合わせたダンスなどの発表や地域の伝統芸能である杖術、太鼓など、どれもよくここまでできるなと思うほど完成度が高く、どんなにがんばって練習したのだろうと感心しました。さらに、「宝都賀歌劇団」のミュージカルと演劇「ごんぎつね」では、思わず泣かされてしまいました。発表の合間には、お笑い芸人風のＭＣが入って笑わせてくれて本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

休日になると、近くの公園から子どもたちの元気な声が聞こえてくる。何をして遊んでいるのかと温かい気持ちになるが、最近「子どもの声騒音問題」が話題になり、驚いている。少子高齢化社会になり、日常的に子どもと接する機会が減ったため、静かな環境を破る子どもの声は深刻な騒音になるそうだ。その心情は理解できるが、周りに気を遣いながら声を潜めて遊ばせるのはかわいそうだと思う。個々の感情の問題だけに難しい。

荒川律委員

林慶仁委員

片田舎で生まれた蛙が、大海に目を丸くしてから、数ヶ月が経ちました。次から次に押し寄せる波に、押し返されたり、流されたりしながら、徐々に波に馴染んできました。

その中でも飛び抜けて大きな学校で、生徒たちとふれあったときのことです。「この学校どうですか？」純粋な質問に、泳げないとは言えません。「みな真面目なのでびっくりしたよ。」大人顔の自分の言葉に、満足そうにした顔は、どの川とも共通であったので、ホッとしたものです。

栃木市の教育の方向

栃木市教育計画（4）

外国語教育の充実

　グローバル化が進展する社会において、互いの文化や考えを尊重しつつ、協力し合いながら問題を創造的に解決していく力が求められています。
　栃木市では、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図るため、小学校低学年から外国語活動の授業を学級担任とＡＬＴ（外国語指導助手）とのティームティーチングで行っています。

じっくりと生きた英語に触れる

　ＡＬＴの生きた英語に触れ、自分の気持ちや考えを伝え合う活動を通して、コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度や外国の文化への興味関心を高めながら、英語でのコミュニケーション能力を育成しています。

ジェスチャーを交えて楽しく学ぶ

教育長のひとこと

栃木市定例校長会（１２月）での話から（抜粋）

　この秋は、各校のスポーツ、文化・芸術、学力向上etc.それぞれの取り組みが「ならでは」の成果を収めて、必ずや一人一人の学びに多くの豊かな‘実り’をもたらしたことと思う。
　また、市の教育祭、秋まつり、路傍の石俳句大会etc.でも、実際に参加したり、特色ある作品を発表したりして、児童生徒の活躍する姿が実によく伝わってきた。今年も「ふるさとの風土で育む」教育への手応えと、各校の確かな教育力を改めて実感することができた。‘実りの秋’に感謝したい。
　さて過日、教職員の研修会で「いじめ・体罰」の未然防止には「教育の基本に立ち返る」事が大事という話の中で、手前味噌だが、ユニークな研修例として栃木市教育委員会指導主事発案の『みんなで次野先生になりきってみませんか！』（下都賀地区初任者研修で、アニメ版「路傍の石」をテキストに講座を実施）を紹介した。
　それは、「路傍の石」の一節、主人公の吾一少年に「いのちの重さ、生きることの尊さ」を諭すその言葉を、担任の次野先生は果たして、どんな表情、どんな口調で、どう表現したのか。自分ならどうするのか。本音と建て前が入り交じっての話し合い、かつ実演し合って深める研修である。各校に、是非お薦めしたい。

教育長　赤堀　明弘

定例教育委員会は、公開を原則としており“広報とちぎ”や市ホームページで日程をお知らせしています。一度見学してみませんか。

【編集の方針】
“教育委員会だより 絆 ”の発行により、市民の皆様に教育委員会の役割や活動内容をお知らせし、いっそうの開かれた教育委員会を目指します。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。
栃木市教育委員会教育総務課　〒328-8686 栃木市万町９－２５　電話：0282-21-2461
FAX：0282-21-2689　Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp